

ロードは協会第一号の介助犬

薄暗い部屋に火の気のない玄関先にバリケンが
無造作に置かれていて、その中から恐怖と寂しそうな顔をして、
私たちを上目使いで見ていた それが最初の出会い。

ロードを育てた先生はトレーニン
グのプロと言われている、この道
65年の大ベテラン、15歳のと
きから軍用犬を育て、軍隊で上官
に指導していた方です。先生の育
て方は「見える」「言わせる」「聴
かざる」という訓練方で、ロード
が協会に来るまでの5年間はバリ
ケンの中で生活しバリケンの外に
出るときは訓練するときだけ、1日
1回の散歩の時だけ外に出しても
らう生活を約5年間してきました。
その環境からいきなり180度違
う環境にロードがやってきたので
す。協会のウィリーたちの環境は
自由な環境の中で全てを学んで行
く環境です。一日中侵食を共にし
ている生活です。いつもトレーナー
たちと一緒に、自由な環境で寝る
ときもトレーナーたちと一緒にです。
ウィリーたちはトレーナーたちの
布団を取り上げ大の字になってみ
んな芋を洗うように都会の狭い部
屋で寝泊りしていました。どんな
に狭くてもバリケンの閉じ込めら
れて狭い部屋の生活と違い手足は
いつでも自由に伸ばせるし、寝返
りも出来るし、夏はクーラーがす

ごく効いて涼しいし、毎日運動や
ボール遊びやプールに入って水遊
びなど、楽しく過ごしています。
ロードは環境が違いすぎて見るの
も慣れることも全てが始めての経
験でした。自由になれていないた
めに、協会では雨の日は散歩がで
きないため、野菜大会をしていま
す。2センチ角に切った野菜を犬
たちに向かってボンボン投げるの
です。それをみんなジャンプして
食べるのですが、その様子を見て
いたロードは、仲間が飛び跳ねて
野菜を楽しそうに食べている様子
にびっくりして空いているバリケ
ンに急いで逃げ込んでいました。
協会に来てから1週間くらいその
光景を見ていましたが、やがて少
しずつ食べるようになり、1ヶ月
も過ぎるころにはみんなと同じよ
うにジャンプして野菜大会に参加
していました。時々ジャンプミス
で他の犬たちに怒られると慌てて
バリケンの中に入ってしばらくは
出てきませんでした。仲間が楽し
そうな様子と自由な生活に少しづ
つ慣れてきました。ロードは5歳
にして初めての経験でした。

